

5 ^{のふじ}野藤遺跡（7次調査）

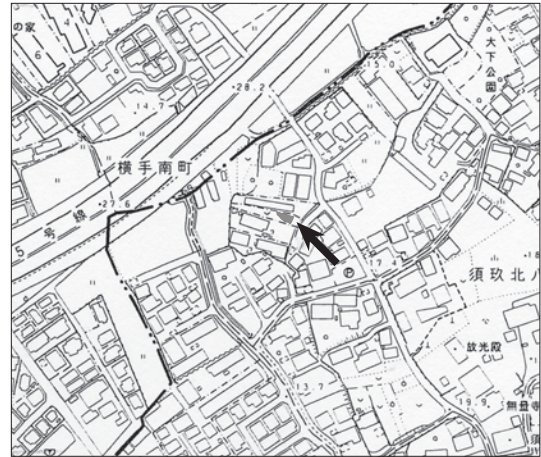
所在地 春日市須玖北9丁目158番

調査面積 99.3㎡

調査期間 2013年12月4日～12月21日

野藤遺跡は、春日市西側の台地に存在する弥生時代～歴史時代の遺跡である。特に弥生時代と古墳時代の墳墓や集落が多く調査されており、1次調査では、墳丘が削平のために消滅する5世紀末の前方後円墳の周溝が確認され、多くの埴輪が出土した。2次調査では弥生時代中期の甕棺墓を主体とする墳墓が調査された。5次調査では弥生時代後期の墳墓や、古墳時代後期の土壙墓と考えられる遺構を調査し、多くの須恵器が出土した。集落は、3次調査で古墳時代前期の住居跡を検出し、弥生時代の集落については各調査で、確認されている。なお、後世の遺構や攪乱からの出土ではあるが、弥生時代の青銅器鋳型小片が出土するため、今後、青銅器工房が確認される可能性がある。

今回の調査は個人専用住宅建設に伴う緊急発掘調査である。



1. 調査地の位置 (1/5000)



2. 調査区全景（東から）

遺構・遺物

今回の調査地は、野藤遺跡の北部の西端に位置する。調査前は野菜畑として利用されていたが、近隣の住民によるとかつては梅林で、畑にする時に重機を使い梅の木を抜根したということであった。その時にはかなりの土器が出土したようで、実際に多くの土器を表面採集することができた。重機を使用し、表土や耕作土を除去すると、赤～黄褐色粘質土の地山に達した。梅の木が植えられていた場所には、地山まで達する多数の掘り込みが確認できた。このため多くの遺構は破壊を受けていたが、竪穴住居跡2軒と溝1条、ピットを確認することができた。なお、遺構検出面の標高は16m前後である。

1号住居跡は調査区の東端部で検出した。大部分は攪乱を受けていたが、多くの土器が出土し、支柱穴も確認することができた。2号住居跡は調査区中央部で確認した。1号住居跡同様に著しい攪乱を受けていたが、住居内の土坑からは高坏などが出土した。両住居跡は何れも弥生時代終末期の住居跡である。溝は調査区中央部から西側に延び調査区外にいたるものである。土器はほとんど出土してはいないが、覆土の状態から考えて弥生時代のものであろう。

小 結

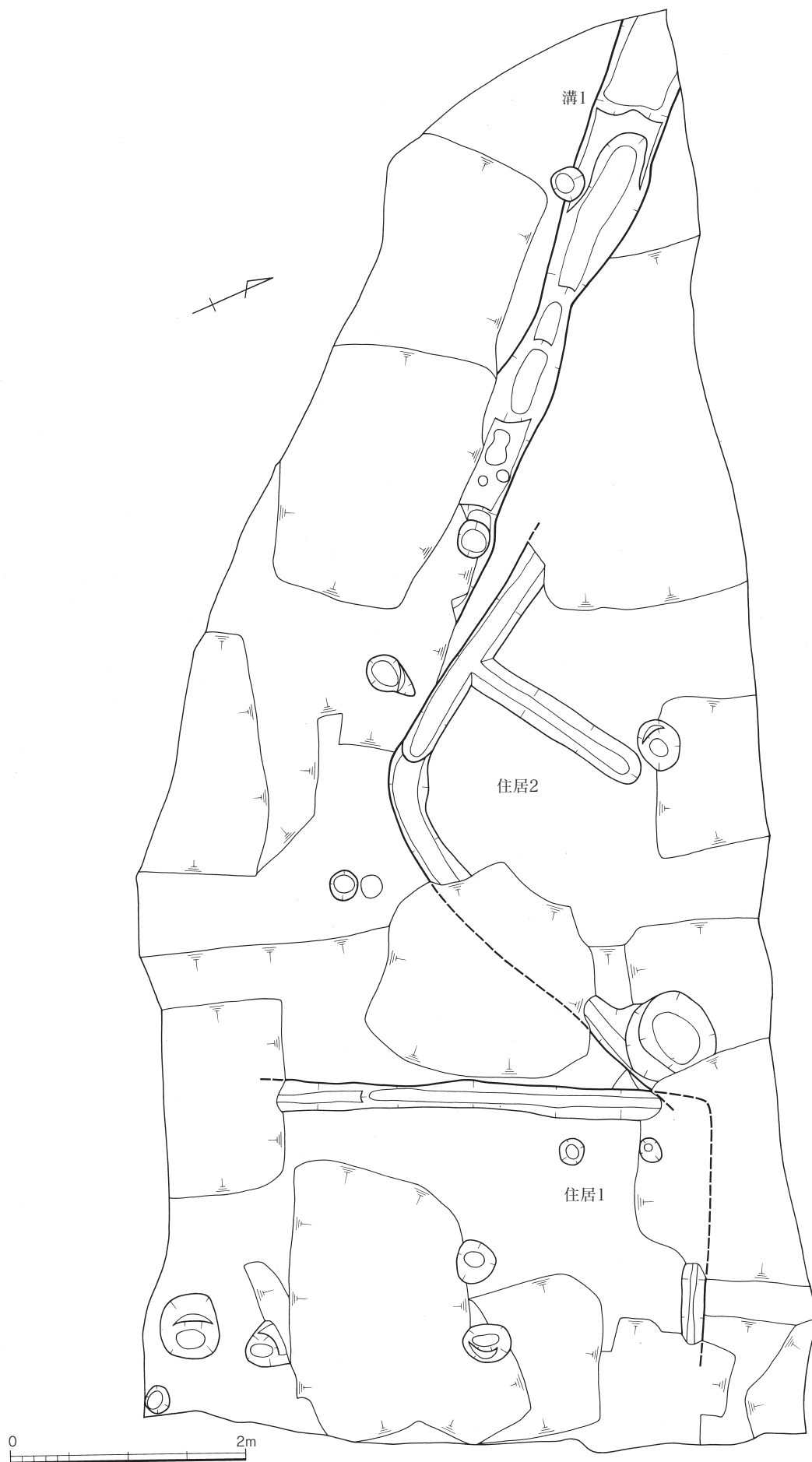
7次調査では、弥生時代の集落を確認することができた。野藤遺跡の中でも当地周辺は調査が行なわれておらず、どのように土地利用されたかは不明であった。今回、住居跡が検出されたことで、当地周辺には集落が広がっていることが明らかになった。(井上)



3. 1号住居跡（東から）



4. 2号住居跡 屋内土坑土器出土状態（東から）



5. 遺構配置図 (1/50)